



伊能忠敬篇3

髭無村の☆印 ひげなしむら

のちに完成した地図（『大日本沿海輿地全図』）には、道や集落が正確に描かれています。宇陀が描かれたところを見ると、「吉隠村、西峠村、萩原村、福知村、赤世村、額井村、飼葉村、長峯村、山邊西村、山邊村、緑川村、白坂村、大野上村、大野村、髭無村、長瀬上村、長瀬中村、長瀬村」などの村名と集落が記載されています。地図や測量日記から忠敬ら一行は、初瀬から萩原を経て、青越え道を東へと進み、名張へと向かったことがわかります。

忠敬ら一行が泊まったという「髭無村」では、天文観測を行っており、地図には☆印が付けられています。忠敬らが歩いた道は、正確に描かれており、旧道の青越え道（伊勢表街道）をたどってみると、一行が泊まった髭無村は、現在の三本松（元三）ということがわかります。また、天体観測を行った場所も推定することができ、忠敬の測量精度の高さには、驚くばかりです。なお、「三本松」の地名の由来は、幹が3本に分かれた老松にちなんでおり、明治8年から村名に使用され、現在は大字名に受け継がれています。

忠敬の功績は、非常に大きく、平成22年（2010）、忠敬が作った地図や測量に使用した器具、関係文書など、2345点が、「我が国の測量史・地図史上における極めて高い学術的価値を有する」として、「伊能忠敬関係資料」という名称で国宝に指定されています。これらは、伊能家に伝わったもので、千葉県香取市の伊能忠敬記念館に保管されています。

